

諦めない姿勢貫く

高校野球福島大会決勝 会津北嶺

大舞台で聖光と熱戦

いわき市のヨークいわきスタジアム(いわきグリーンスタジアム)で25日に行われた第107回全国高校野球選手権福島大会の決勝で、会津北嶺は聖光学院に敗れたが、最後まで諦めない姿勢を貫き大舞台で輝いた。応援スタンドからは「会津から甲子園に」の声が響き、選手の躍動を後押しした。

会津北嶺は持ち味の「攻撃野球」を決勝でも発揮した。四回に聖光学院に先制を許したが、五回に山本優太選手(3年)の中前打、井ノ川陽太選手(2年)斗選手(3年)の右前



5回、青柳選手が三塁への内野安打を決め、ガッツポーズ

打で勝ち越した。吉田海刀選手(2年)の適時内野安打でさらに1点を加えた。守りでは関根選手、小林雄陽選手(3年)、水村劉之介選手(2年)の継投で聖光学院打線に立ち向かった。八回2死一塁の場面では中堅渡部智大選手(2年)がダイビングキャッチで打球を好捕し、球場を大きく沸かせた。

スタンドでは応援団や保護者らが選手の勇姿を見守った。保護者会長の五十嵐宏行さんは「一戦一戦強くなっていた。最高の夏をありがとうと伝えた」と目を潤ませた。同校応援団でトランペットの演奏を担当した深野聖愛さん(3年)は「負けは悔しいが、決勝で応援できて楽しかった」と話した。

初優勝を逃し、肩を落とす会津北嶺ナイン。会津勢初の夏の甲子園はならなかったが、決勝でも見せ場をつくった



力強い応援で選手の背中を押す三塁側スタンド



5回、先頭打者で中前打を放つ山本選手